

日本キリスト教団松山教会主催 東岡牧 (JOCS 元理事) 野宿者を支援する会代表報告会

「野宿する人の人生に寄り添って」

11月19日から21日までの3日間、愛媛県松山市の教会や学校の3か所に報告会に行っていました。日本キリスト教団松山教会主催 報告会の様子、写真を掲載いたします。



名古屋市は2019年1月市内で野宿する人は120名と発表。

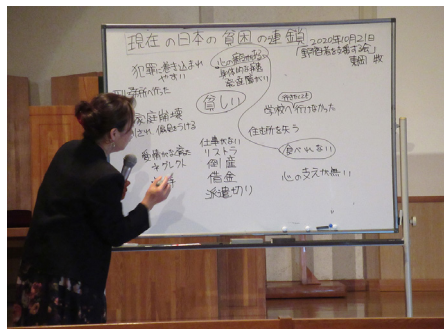
実数は、その2倍以上の300名を超えると推定されます。人生をあきらめながらも死ぬことはできず、その日一日の生を生きるために一生懸命、アルミ缶回収作業などをしながら差別と偏見に耐え、野宿を続けているのです。

野宿する人、その一人一人は、様々に複雑化した事情、困難な問題を抱えています。

彼ら一人一人の辛い人生に少しでも寄り添いたいと思い、10年前から河川敷、高架下、公園などに野宿する人を訪ね、健康チェックをしながら相談・援助・看護活動を継続しています。



スライドを使って



白版による説明



紙芝居を使って



日本の平均寿命は82歳、一方、野宿する人・元野宿していた人たちは66歳だといわれています。長寿国といわれる私たちの国で、このような事がなぜ起こってくるのでしょうか？



学校ではマスクを着用して講演

今回、野宿者支援の活動から見えてくるものを紹介して頂きながら、この貧困問題＝社会問題について、途上国の諸問題とも関連付け、皆さんと一緒に今後とも考え続けたいと思います。